

公共事業事前評価調書(平成 30年度予算要望)

所管課:港湾課

担当班:計画調査班

事業名	前泊港港湾改修事業	事業区分	港湾事業	事業主体	沖縄県
事業箇所	伊平屋村我喜屋地先				
事業の諸元	岸壁改良 L=150m、取付護岸 L=70m、臨港道路 L=45m、港湾施設用地 A=3, 200㎡ 防波堤改良 L=424m				
事業の概要	前泊港は、本部半島の北約40kmの伊平屋島の東側に位置する地方拠点港湾であり、運天港との間に定期フェリーが1日2便就航しており、島の玄関口として重要な役割を担っている。 本事業は、既設岸壁の嵩上げ等を行うとともに、波の遡上による被害を防止するものである。				
事業の必要性・効果等	<p>《必要性》平成26年4月に定期フェリーが大型化しているが、昭和50年代に整備された既存岸壁(対象船舶500t級)は岸壁天端が低く、利用に支障を来しているほか、荒天時に波がエプロン上に遡上するなどの問題があるため、岸壁の嵩上げ改良を行う必要がある。また、防波堤の天端が低いことから台風時の越波が大きいため、防波堤の嵩上げ改良を行う必要がある。</p> <p>《効果》岸壁の嵩上げを行うことで、荷役作業および人員の乗降の効率が向上するほか、岸壁上への波の遡上を抑えることが出来る。</p>				
事業期間	事業採択	平成30年度	完了(予定)	平成35年度	
全体事業費	9.3	(億円)	補助・単独の別	補助	補助率 9/10
費用対効果	B/C = 1.0	総便益:B 7.2 (億円)	総費用:C 7.2 (億円)	総事業費(割引後):7.2億円	基準年 平成 27年度
		防波堤被災回避便益等(割引後):7.2億円			
事業着手の熟度・上位計画との整合性	沖縄21世紀ビジョン基本計画において、「基本施策3-(11)離島における定住条件の整備—ウ交通基盤の整備と交通ネットワークの充実化」に位置付けがある。				
環境への配慮	既存施設の改良であるため、環境への影響は軽微だと考えるが、施工時には十分な配慮を行う。				
関係する地方公共団体等の意見	地元伊平屋村より要望がある。				
概要図(位置図)	<p>The figure consists of two parts. On the left is a small map of Iriomote Island with a red dot indicating the location of Maeboshi Port. On the right is a larger aerial photograph of the port area with red arrows and labels pointing to specific project sites: '防波堤改良' (Breakwater improvement), '岸壁改良' (Pier improvement), '臨港道路' (Harbor road), and '港湾施設用地' (Harbor facility land).</p>				